

伴走支援の「助走」としての 公募選考プロセス

村上 悟 (特定非営利活動法人 碧いびわ湖)

西村 俊昭 (公益財団法人 東近江三方よし基金)



×

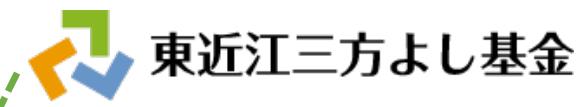
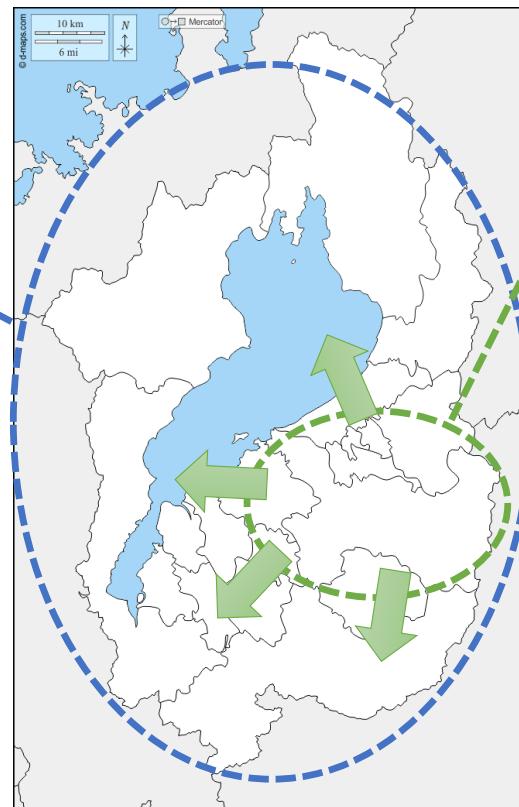


東近江三方よし基金 = 「びわ湖・三方よしローカルコモンズ」

コンソーシアムの構成



- ・滋賀県域（人口 約140万人）
- ・生協運動と環境運動を原点に住民協同自治に取組むNPO
- ・休眠預金活用事業は**初めて**

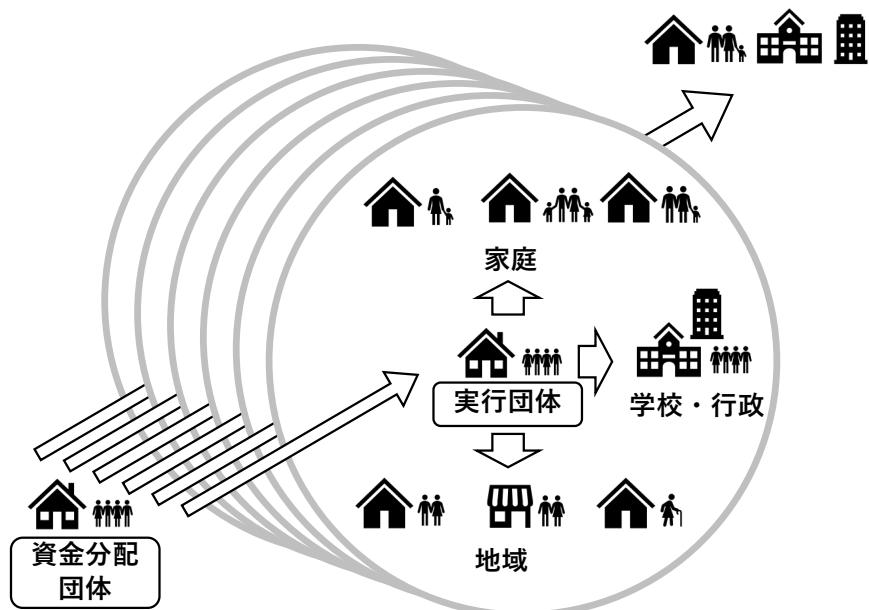


- ・東近江市域（人口 約11万人）
- ・「地域総働」で未来資本の創出に取組むコミュニティファンド
- ・休眠預金活用事業に**2019年度からの経験と実績**

私たちの事業概要

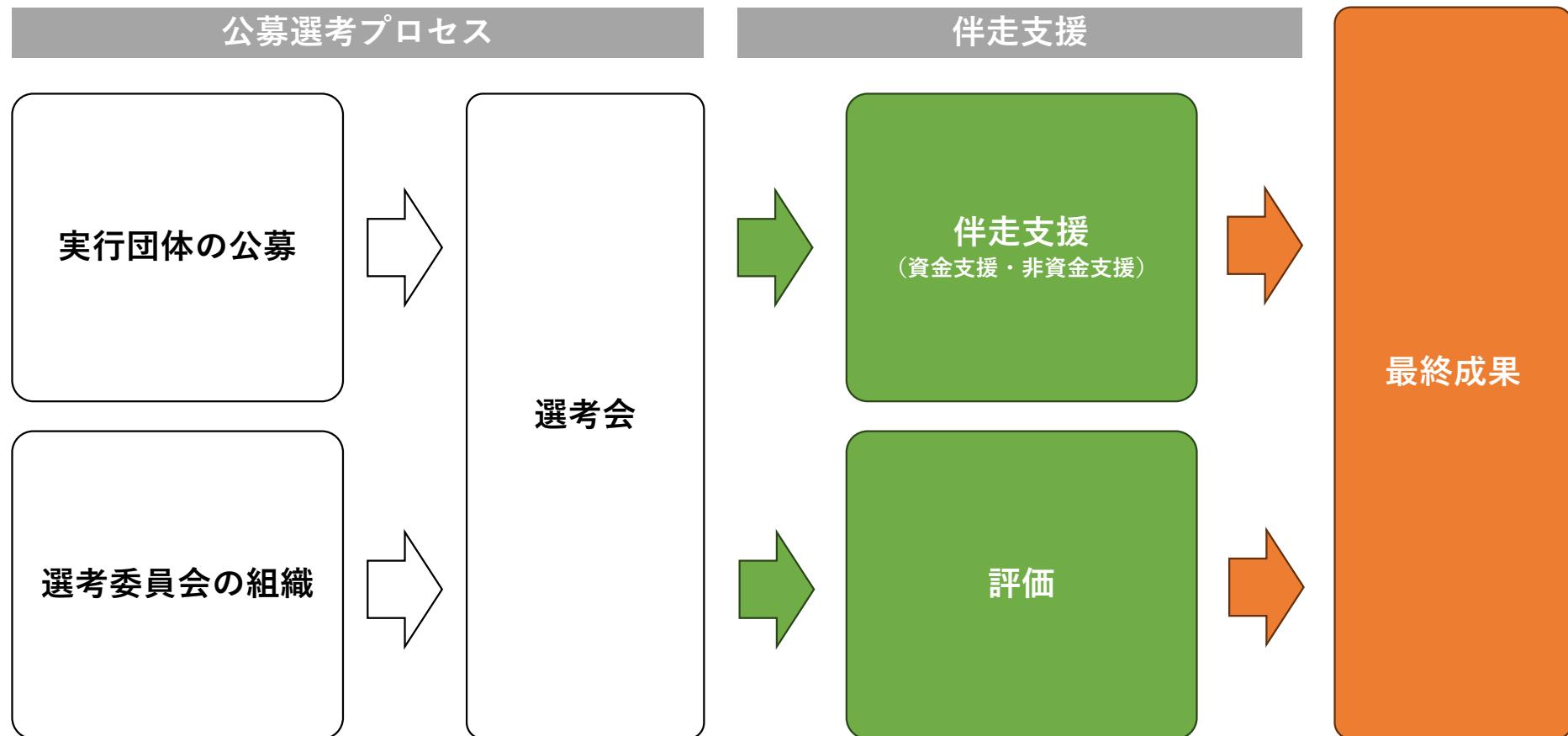
「あらゆる子どもの育ちを保障する地域総動」

多様な人々の参画で、不登校でも孤立せず育ち学べる地域をつくる

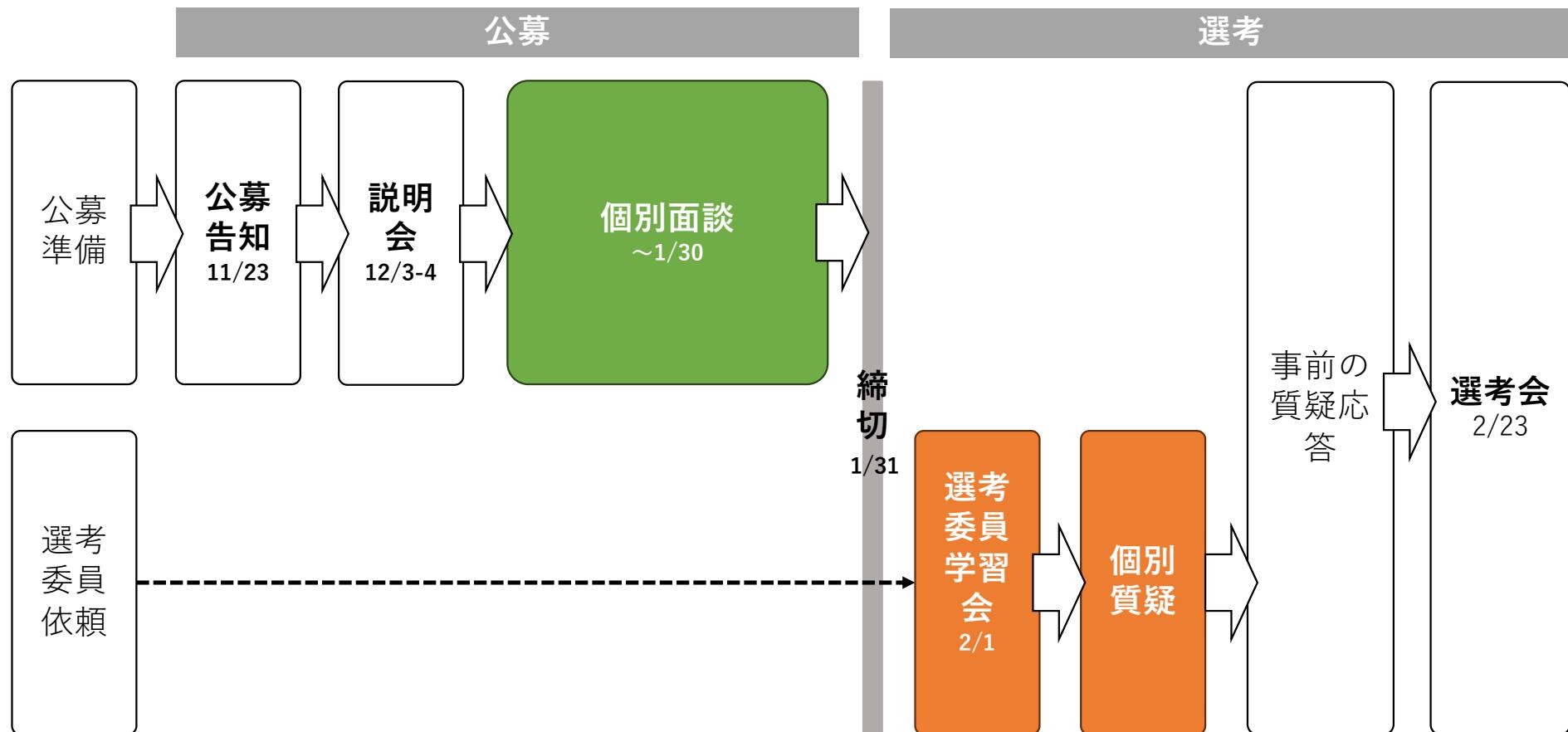


【各地域の目標状態】
実行団体の活動により
子ども・若者とその保護者の周囲に
多様な人々の生態系（コミュニティ）
が育まれている

公募選考プロセスは伴走支援の「助走」



公募選考の過程



個別面談

- ・応募団体は原則としてすべて1回以上訪問
- ・応募書類、ロジックモデルの作成等を支援
- ・併せて、公募趣旨を伝えた

想定採択団体数	7団体
問い合わせ団体数	29団体
面談を実施した団体数	14団体
総面談回数	44回
応募団体数	16団体
採択団体数	6団体

※採択団体の平均面談回数は4.5回

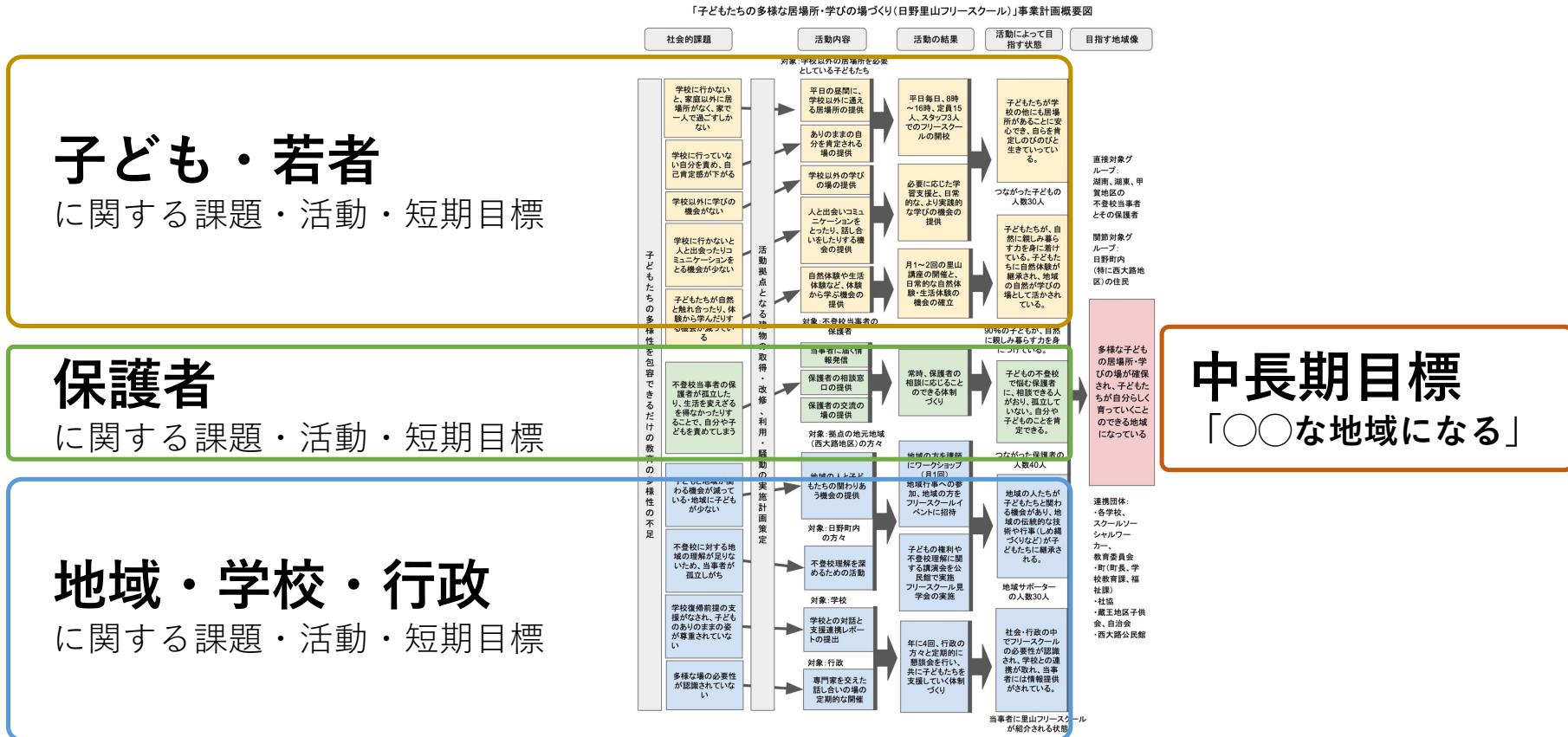


ロジックモデルの例

子ども・若者 に関する課題・活動・短期目標

保護者 に関する課題・活動・短期目標

地域・学校・行政 に関する課題・活動・短期目標



選考委員との事前研修会・個別質疑

<事前学習会>

- POから選考委員へ事業趣旨の共有
- 選考委員の知見共有と評価視点の確認



<個別質疑>

- POから選考委員への補足説明
- 選考委員からの質問への回答



選考委員会の構成 5人 学識経験者3名
各団体の役員各1名ずつ

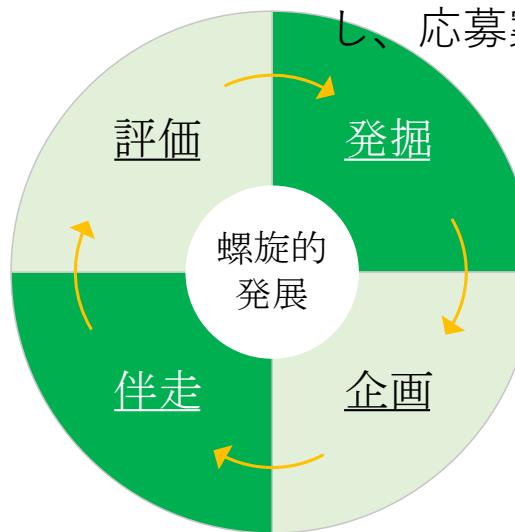
プログラムオフィサーの活動内容

4.評価：事業完了時点

成果評価と新たな課題を可視化する。

1.発掘：資金分配団体の応募申請前

日常の活動の中で地域の課題を把握し、応募案件を作成します。



3.伴走：申請前事業実施中

実行団体の状況に合わせて、必要な支援の形を考えながら伴走する。

2.企画：実行団体の公募期間中

実行団体の申請書の作成を支援しながら、想い、覚悟、力量を見極めます。

STEP

2 企画 実行団体の公募期間中

実行団体の申請書の作成を支援しながら、想い、覚悟、力量を見極めます。

- **申請書の作成支援により、想いを表現できるようサポートする**
- **活動支援に加え、地域変革のための活動を支援することの理解を促す**
- **社会課題→活動→成果目標→将来像を明確にする**
- **実施団体の想い、覚悟、力量を見極める**
- **不採択された団体とも連携を続ける**